「専攻科福祉専攻の閉科」に寄せて

NPO 法人　高齢者住まいる研究会
理事長　寺西　貞昭

私は、専攻科福祉専攻が幕を閉じると伺い、非常に残念でなりませんでした。なぜなら、保育や介護現場で災害から自分の命や大切な人を護る福祉人材教育ができると非常に期待をしていたからです。

専攻科福祉専攻の学生さんとは、６月の実習前と実習後に遠隔授業(現在、熊本県高齢者施設で勤務)で２回、「福祉施設のリスクマネジメント」の授業でお目にかかりました。

そこで、「就職をするならハザードマップで安全な地域かどうか」を把握することがこと！」と話をさせていただきました。「就職する前、選択できる権利を行使して、防災に生かすことができます。つまり、危険な場所にある施設には就職しない選択は最大の防災策！早晩、施設は危険地域の立地に対して安全な場所への移転を考えざるを得なくなるかもしれない。未来の利用者と職員、地域のための立派なアクションになるといえるかもしれません。」とお話をしました。災害を他人事の様に感じてしま傾向にあり、我が事の生活や人生と結ぶ付けにくいので、目の前の就職とつなげてみました。

我々は、日本災害福祉楽会のホームページでは、「災害は日常生活をする上で突然降りかかってきます。自然災害は私たち日本人が想定する以上に怖いものです。災害に対する意識が日頃から少なければ、それだけ被害は拡大するかもしれません。可能な限り万全な備えや意識さえあれば被害を最小限にとどめることができるかもしれません。最小限に留める手段として、私たち自身の災害に対する意識を高める、あるいは、災害をイメージできるツールを活用することで”災害に強い人・組織・地域”を作り上げることができるのではないでしょうか？」とあり、災害は、介護者も介護される側も被災者となり、人生や生活を一変させてしまいます。「災害に強い福祉職」づくりは、地域づくりでもあります。

日常でも災害時ならなおさら誰もが一人で生きていくことは困難だということです。また、自分の命は誰かにとって大切な命でもあることも忘れないでください。後は、ようやく来年度から３年かけて BCP（業務継続計画）が義務化されます。

専攻科福祉専攻の閉科後は、「災害に強い福祉職」「リスクコミュニケーションができる福祉職」として、異なる現場から現実的かつ困難な課題等の情報交換、勉強会等、ぜひご一緒に広域でつながっていきましょう。きっと、なにか元気とヒントがみつかるはずです。楽しみにしています。(^^♪